

# 散策しながらアート満喫

総社商店街「まちなか美術館」

25日まで

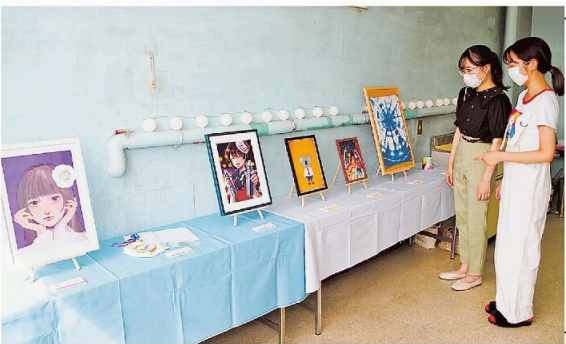
レトロな町並みが残る総社市中心部の総社商店街を「壁のない美術館」に見立ててアートを堪能する「まちなか美術館」(同市文化協会主催)が開かれており、訪れた人は鑑賞や体験を通して芸術の秋を満喫している。25日まで。

地元作家らが絵画や写真、ガラスなどの作品を、備中国総社宮(同市総社)に近い同商店街の店舗や古民家など計16力所で展示している。

県立大デザイン学部生チームは、総社カルチャーセンター(同所)に「私たちの絵しりとり」を出品。イラストや刺しゅうなど16点のタイトルが伏せられており、しりとりをヒントに鑑賞者に想像させる。企画した造形デザイン学科4年光岡颯音さん(22)は「自由な発想と技法で制作した。一緒に楽しんで」と話す。

市内の就労継続支援B型事業所で働く自閉症の画家・鈴木崇寛さん(44)は、1.6坪四方の画面に愛嬌ある猫を描いた「アオネコ(大)」を山陽新聞総社支局(同所)の窓に掲げている。彫刻家平田敦司さんが鉄で作

しりとりになっているタイトルを作品から想像させる県立大生チームの「私たちの絵しりとり」  
|| 総社カルチャーセンター ||



り上げた「成長する まちなかの木」は、訪れた人がはがき大の作品を飾れる参加型アート。浴衣を着てまち歩きが楽しめるレンタルサービス(千円、要予約、20日を除く)があるほか、茶席、演奏、ワークショップも随時行われる。

会場のマップやイベントの日

程はホームページ

|| QRコード || に

掲載している。



(寺尾彰啓)

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。